

普及活動情勢報告（令和3年12月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

厳寒期に備えて ～安芸支部園芸部園芸研究会総合部会～



11月25日、安芸支部園芸部園芸研究会が総合部会を開催し、ナス、米ナス、ピーマン、ミョウガの生産者、計50人が参加しました。

勉強会では、ハウスの保温資材の紹介や加温機ダクトの設置方法の説明等を中心に厳寒期対策について学びました。農業改良普及課は、厳寒期の適切な栽培管理について説明しました。今冬は燃油価格高騰が痛手となっており、参加者は効率的な加温機や炭酸ガス発生機の使用を目指して真剣に話を聞いていました。

農業改良普及課は、本園芸年度の厳寒期も乗り越えられるよう、引き続き適切な栽培管理を指導します。

東大野集落営農組織役員会の開催



12月1日、田野町で東大野集落営農組織の役員会が開催され組織の役員及び関係機関等計10名が出席しました。

会では、次年度はWCS用稲を約1.7ha栽培することとし、栽培予定は場の確認を行いました。収穫作業については、今年と同じように南国市の組織に作業委託することになりました。農業改良普及課は、栽培作目選定にむけて、収支に関する情報提供等行いました。今後作業開始にむけて、検討課題が増えてくるため、毎月1回役員会を開催することになりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、集落営農組織の活動を支援していきます。

県内量販店と安芸地区果樹部ポンカン部会が東洋町で交流会を開催しました！



12月2日、JA安芸地区果樹部は昨年から取引を始めた県内の量販店と、本格的な収穫シーズンを迎えた東洋町で交流会を開催しました。

農業改良普及課室戸支所から「やや小玉傾向で着色が遅れている」と本年の生育概況を報告し、量販店からは昨年より多く特選「土佐よさこいポンカン」を出荷して欲しいとの嬉しいオーダーがありました。

現地では、着果や着色状況を確認し、「これだけ成っていて少ないの？」、「どういった果実が美味しいのか」など多くの質問が出て、生産者と活発な意見を交わしていました。

農業改良普及課室戸支所は、今後も特選「土佐よさこいポンカン」の安定した出荷量が確保できるよう、栽培指導を行っていきます。

「土佐の料理伝承人」による鯖の姿寿司伝承講座



12月10日に県農産物マーケティング戦略課と土佐の料理人伝承人主催の郷土料理伝承講座が開催され、中芸地区農業村女性グループ員15人が参加し、鯖の姿寿司、金時豆の押し寿司を作りました。

農業改良普及課は、土佐の料理伝承人制度の活用支援やレシピづくり、講座の運営等を支援しました。

グループ員は、鯖の姿寿司の鯖の開き方やふり塩の仕方、寿司飯の作り方等を習い、「細かいコツがよく分かった、お正月に作ろう」との意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も中芸地区農漁村女性グループ研究会の活動を支援していきます。

品種の違いを比較 ～安芸支部園芸部園芸研究会青年部会～



12月16日、安芸支部園芸部園芸研究会青年部が現地検討会を開催し、若手を中心とする生産者24人が参加しました。

現地検討はそれぞれ異なる品種のナス（竜馬、土佐鷹、慎太郎）を栽培する3圃場を回り、見比べながら品種の違いを議論しました。

農業改良普及課は各品種の栽培における特徴を説明しました。生産者は、栽培したことのない品種をじっくり見ることで、自分に合った品種は何か考える機会を得ることが出来ました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、若手生産者の育成を支援していきます。